

【第14回年次大会 研究発表 要旨】

中国語のオネエ言葉をめぐる現象と特質

河崎みゆき

要旨：中国でいままで研究対象として考えてこられなかったオネエことば「娘娘腔（ニャンニャンチャン）」を北京大学コーパスおよび映画・テレビなどの映像資料、ネットの書き込みなどから分析、言語面の特徴、歴史的な角度と社会的な角度から中国のオネエことばをめぐる現象を考察した。

1. 「娘娘腔（ニャンニャンチャン）」の定義

「娘娘腔（ニャンニャンチャン）」は「現代漢語詞典」（商務印書館）にも載っていない言葉であるが、一般的な成人中国人でこの言葉を知らない人はいないだろう。

ネット上辞書「互動百科」によれば、「娘娘腔は主に男性が女性のような弱弱しい声で話す声やトーンをいい、多くは男性の举止が女性化していることを指し、古代の娘娘（皇后、宮妃）に似ていることから「娘娘」の腔（喋り方）と呼ばれる。けなし言葉」と説明されている。

2. 研究内容と方法

この言葉は現代のメディアの中でも、しばしば使用されており、日本語の「オネエ言葉」に当たる。筆者は、博士論文「汉语角色语言研究（中国語の役割語研究）」（河崎 2013）の中で人物像と言葉の結びついた中国伝統の「役割語」の一つとして、官腔（役人言葉）、書生腔（学生言葉）、娘娘腔（オネエ言葉）に注目、考察を行ったが、特徴として、非言語的要素が大きいことがわかった。娘娘腔は中国でも先行研究がほぼなく、データは、北京大学中国語学研究中心 Center for Chinese Linguistics PKU(略称 CCL コーパス)、及びインターネット上の書きこみ、TV 番組や映画などから収集、非言語行動についてはそれらの観察と一部アンケート調査を行った。

3. オネエことば「娘娘腔（ニャンニャンチャン）」の特徴

「娘娘腔」の言語的特徴は日本語ほどは明らかではないが、曹志燾（1987）李清（2006）河崎（2011）で指摘された若い女性ことばの特徴が利用され（例、語気詞の多用、自称詞「人家」の使用、感嘆詞など感情的色彩の濃いことばの使用など）、映画やドラマのオネエキャラの演出に使われている（例、『非誠勿擾（邦題：狙った恋の落とし方）』2008年馮小剛監督）。

北京大学 CCL 古代語コーパスでは民国時代の用例が一つあるだけだが、実際は「娘娘(皇后)」から来ているのであれば、清朝にはあったと推測できる。

実際、中国の人々のイメージの中でオネエことばを話すのは、清朝の太監（宦官）があり、映画（『大太監李蓮英』1991）などでも繰り返し、か細く女々しい声（娘娘腔）で話す代表として描かれている。2012年に放送されたドラマ『大太監』で、「娘娘腔」が使われなかったことが話題になったほどで、宦官に対する偏見が定番化していたことがわかる。

音声などの特徴以外にオネエ言葉の周辺には、服装、化粧、髪形、歩き方、振る舞い、目線等の非言語的要素があるが、特に小指の動作（蘭花指）、髪の毛をいじる、内また歩きなどは娘娘腔の代表的非言語として使用されている。「髪いじり」は、ドラマなどで使用される若い女性の非言語役割語である。

4. オネエことば「娘娘腔 (ニャンニャンチャン)」をめぐる史的角

歴史的には中国の男性女性化は次の5つの角度から考察できる。

- 1) 漢の時代に芽生え、魏晋南朝には流行したされる「男扮女装」
- 2) 伝統演劇での「反串」(実際の性と反対の性を演じること)
- 3) 男性が女性に仮託して書いた詩文などの文学 (例えば、六朝宮体詞宮体詞、五代十国時代《花間集》、晩唐・温庭筠「菩薩蛮」の「懶起画峨眉、弄粧梳洗遲」など)
- 4) 「娘娘腔」が指す太監(宦官)や現代のオネエ(言葉)、メイクアップアーティストのことば
- 5) 日本のアニメやゲームからの影響で、主に男子のコスプレ現象を表す「偽娘(ウェイニャン)」

「偽娘」は美しいコスプレであり、「娘娘腔」にある弱弱しい女男をイメージさせるものではない。また「偽娘」は、もはやけなし言葉でも、嘲笑いの対象でもない。こうした言葉の変化から、中国社会の価値観の多様化への努力が見てとれる。

5. まとめ

中国のオネエことば「娘娘腔(ニャンニャンチャン)」は、主に服装や髪の色、手真似などの非言語行動と、若い女性ことばの特徴を模倣した男性女性化の現象である。漢代にめばえ魏晋南朝には流行したされる「男扮女装」や芸能、文学史上女性に仮託して書かれた詩文にもさかのぼって考えることができる。日本のACG(アニメやゲーム)などからの影響もうけながら、その評価に揺り戻しはあるものの、芸能の世界で表現力を増やしたり、社会の価値観の多様化に対応する現象として、今後も注目に値すると考える。

本発表は、博士論文「中国語の役割語研究」の一部を単独論考としてまとめなおしたものである。

参考文献

- ・ 陈宇浩 (2009) “小沈阳咋不像“小沈阳”嚎?” 「今日早报」
- ・ 胡颖佳 (2012) 「论明代戏曲中的“男扮女装”现象——以《赠书记》为例韶关学院学报『社会科学』第33卷第5期
- ・ 河崎みゆき (2011) 「中国の若い女性のことばを探る—中国男女口癖調査を中心に」『日本語とジェンダー』第11号
- ・ 李箐 (2006) 「论女性话语风格」华中师范大学 修士論文
- ・ 张明辉 (2011) 「解读伪娘」『唐山学院学报』24号
- ・ 水本光美 (2005) 「テレビドラマにおける女性言葉とジェンダーフィルター文末詞(終助詞)使用実態調査の中間報告より」『日本語とジェンダー』第5号
- ・ 中村桃子 (2010) 『ジェンダーで学ぶ言語学』世界思想社
- ・ 徐蔚 (2007) 「男旦：性别反串—中国戏曲特殊文化现象考论」厦门大学博士論文

(かわさき みゆき・上海交通大学日本語学科講師)